

主催：べつのみかたプロジェクト



レクチャー

ワークショップ

べつのみかた展（成果展示）



見慣れたモノを新たな視点で見つめる

私たちの活動は、一見何でもないような風景や日常の中で見慣れてしまったモノに着目し“べつのみかた”で「観察」することで、今まで見えていなかったその土地の“何か”を「発見」できるのではないかとの思いから始まった。プロジェクト名である“べつのみかた”は、モノのもつ「主題」（＝用途）ではなく、モノとそこに刻まれた人々の営みとの「関係」をその造形から見つめる、いわば、市井の人々による“生（なま）のデザイン”を見出す見方である。初回となる2018市民プロジェクトでは、新潟のモノ（特に『水害遺産』）に焦点を当て、リサーチと考察、他地域との比較を通して、市民の作ってきた文化や産業の隠れた一面を浮かび上がらせ「もうひとつの日本文化」の多様性を発信し共有することを目的とした。災害民俗学の畑中章宏氏を迎えてのレクチャーとワークショップは、活動に興味・関心を持つ層の増加につながったと考えている。

畑中氏によるレクチャーでは、かつての新潟の民衆による防災文化財である「水倉」をメインに、リサーチ活動の基本でもある民俗学的視点についてお話いただき、ワークショップでは、水害にまつわる一見何でもない風景を新たな視点で見つめることを体験していただいた。ワークショップは「同じモノを見ても人によって違う見方・捉え方をしている」ということを「表現することで気づく」という実験的な試みとなったが、参加者・協力者からしばしば発せられた「普通のまち歩き視点とは何かが違うようだが、面白い」という気づきの言葉を成果の一端と捉え、今後の活動につなげていきたい。なお、今回は江南区郷土資料館を地域との接点として設定した。リサーチや展示、来場者との交流会を通して館を取り巻く方々とともに地域文化の見えていなかった側面を発見する貴重な機会となった。（文：石山）

- 7月28日(土) レクチャー<講師>畑中章宏氏（新潟市歴史博物館みなとぴあ）
- 7月29日(日) ワークショップ<ゲスト>畑中章宏氏（江南区文化会館）
- 8月4日(土)～10月8日(月・祝) 成果展示「べつのみかた展」（江南区郷土資料館）